

## SSL-VPNリモートアクセスソフト機能要件

## ○基本要件

- ・クライアント環境からはLWAN接続系ネットワークが利用可能であり、インターネット接続系ネットワークを利用する際は、クライアントにてユーザ認証を行い、クライアントのデスクトップ上に仮想領域が作られること。
- ・クライアントでは、仮想領域利用時のみ同一端末内でLWAN接続系ネットワークとインターネット接続系ネットワークは併用可能であることとし、仮想接続を終了した時点でクライアントからインターネット接続系ネットワークへのアクセスができなくなること。
- ・クライアントの仮想領域外の環境については、以下ローカル領域とする。

## ○機能要件

No	分類	詳細
1	ユーザ認証	ActiveDirectoryと連携しユーザ認証が可能であること。
2	ユーザ管理	インターネット接続系端末のWebブラウザ等でユーザ管理ツールにアクセスして基本設定が可能であること。
3		ユーザポリシーはCSVファイル等でインポート・エクスポート可能であること。
4		パスワード誤入力回数の制限が可能であること。
5		パスワード誤入力回数が制限に到達した際は仮想領域へのログイン制限が可能であること。
6		ユーザ毎に仮想領域でアクセス可能なIPアドレスを設定できること。
7		ユーザ毎に仮想領域でランチャーに表示する情報を設定できること。
8		ユーザ毎に仮想領域からローカル領域へのデータ持ち出し権限の設定が可能であること。
9		ローカル領域または仮想領域で一定期間操作がない場合は仮想領域を自動終了可能であること。
10		ユーザ管理情報について設定のバックアップおよび復元が可能であること。
11	同時接続数	ローカル領域から仮想領域へ同時に接続可能な端末数は最大で250台とする。
12	視認性	仮想領域で使用可能なアプリケーションはランチャー内にすべてまとめて表示できること。
13		アプリケーションが仮想領域かローカル領域で使用されているかは赤枠等により視覚的に判別可能であること。
14	情報漏洩対策	仮想領域からローカル領域に接続された外部記憶媒体(USBメモリ、CD-R等)へのデータ持ち出し制御ができること。
15		仮想領域とローカル領域間において、フォルダ・ファイル・テキストの切り取り及びコピー＆ペーストの制御が可能であること。
16		仮想領域とローカル領域間の印刷の制御が可能であること。
17		仮想領域においてユーザのアクセス権限が無いファイルサーバや共有フォルダは非表示にできること。
18		仮想領域からはローカルファイルが見えない設定が可能であること。
19		仮想領域においてウォーターマーク(すかし)の表示選択が可能であること。
20		仮想接続終了時に仮想環境内のデータを自動消去できること。
21	ウイルス対策	仮想領域において実行ファイル(exeファイル)が動作しないよう設定が可能であること。
22		ローカル領域にウイルス対策ソフトがインストールされていない場合、仮想領域へのログイン制限が可能であること。
23		仮想領域においてファイルを展開する際は仮想領域からローカル領域への全てのポートアクセスを制限することが可能であること。
24	操作性	専用ブラウザ不要であること。(Chrome、Edgeのいずれかで利用可能であること)
25	アップデート	クライアントモジュールのアップデートが必要な場合は、管理サーバからクライアントへ一括で適用することが可能であること。
26	ログ取得	仮想接続しているユーザのアクセスログが記録できること。
27		記録されたアクセスログをCSV出力できること。
28	クライアントインストール	市所有のクライアント運用管理システム(SKYSEA Client View)からインストーラを一斉配布できること。(もしくはbatファイルによるインストールが可能であること)